

わが国の強みを活かしたバイオ産業の健全な発展に向けて

2000年7月18日 (社)経済団体連合会

わが国のバイオ技術の向上と産業の振興に向けた産学官による主な動き

「バイオテクノロジー産業の創造に向けた基本戦略」(科学技術庁、文部省、厚生省、農林水産省、通商産業省)と産学官連携諸施策の展開
国家産業技術戦略の一環としての「バイオ産業技術戦略」
ミレニアム・プロジェクト(ヒトゲノム多様性解析プロジェクト、疾患遺伝子プロジェクト、イネゲノム・プロジェクト)の推進 など

ポスト・ゲノム・シーケンス(ゲノム配列の解析から機能解析へ)の時代において、わが国の強みを活かしてバイオ産業を発展させるには、産学官の努力に加え、さらに何が必要か。

バイオ産業の振興は、国家的に取り組むべき課題であり、総合科学技術会議をはじめ、関係機関において、産学官連携の下に、国全体としての一体的な政策展開が重要

技術基盤の整備(研究資源 環境の整備、産学官連携)

1. 大学における研究水準の向上

競争的研究資金の拡充
産業化指向のテーマの設定を含む大学等と産業界との意見交換の活発化

重点分野における技術基盤の整備]

2. SNPs関連プロジェクトの連携強化と統合データベースの構築

各プロジェクトの有機的連携と統合データベースの構築
知的財産権等に関するルールの整備
タンパク質の構造 機能解析

3. 微生物資源の確保と新産業創出への活用

管理レベルの向上、データベースの整備、中核機関の構築
ゲノムと機能の解析による微生物機能の高度利用に向けた研究の推進

4. 機能性食品分野での国際的優位性の確立

機能性食品学会の早期設立による求心力の向上
機能性食品において確認された効果のレベルに応じた表示内容の実現

5. バイオインフォマティクスとゲノム機能解析の振興

バイオインフォマティクス人材の育成
分散するデータベースを管理 保護 運用する仕組みの構築
産業化基盤として重要なあらゆる生物のゲノム機能解析の推進

6. 環境バイオに係わる基盤技術の振興

・ミナム・ゲノム・プロセッシング等の先進的技術開発やバイオレメディエーションの推進

基盤研究から産業化に至るまでの環境整備

1. ベンチャー企業の創出・育成

TLOの効果的活用
国立研究所から産業化視点での情報提供
ベンチャー企業支援税制の拡充

2. 国家プロジェクトの運営弾力化と知的財産権の民間への付与の徹底

各プロジェクトにおける、予算の複数年度化と費目間の流動化、節約制度の見直し、審査の透明化と結果の開示
日本版バイドール条項の各省庁への徹底と恒久化

3. 知的財産権の国際的ハーモナイゼーション

・ゲノム関連特許に関する審査基準(「進歩性」「有用性」)について日米欧間での調和

国民の理解に基づく市場の受容性の向上

1. 安全性に関する技術基盤等の整備

企業における安全性に対する取り組みや情報公開の一層の強化
国立研究所等による食品の安全性や環境への影響に関する研究の充実と技術基盤の確立
関係各省庁における安全性審査 表示にあたって整合的取り組みの強化と国際的ハーモナイゼーション

2. バイオテクノロジーに対する国民の理解の向上

企業による積極的な情報提供
子どもから大人 企業人に至るまでの生物等に関する教育、政府等による広報活動の充実

3. 生命倫理に関するルールの確立

・国民の意識を的確に捉えたルールの確立

わが国企業の国際競争力の強化 国民生活の質的向上